平成 31 年度

瑞穂市自治会連合会 事業報告会

地域のコミュニティを深めるために（中原自治会）…Ｐ１

住みたくなる地域作り（森自治会）…Ｐ６

自主防災活動（仁井自治会）…Ｐ１１

地域力を高める（上牛牧自治会）…Ｐ２１

防災への取り組み（村中自治会）…Ｐ３２

日　時：令和元年１２月１４日（土）

第１部　事例発表　１４：００～１６：００

第２部　交流会　　１６：１５～１７：１５

場　所：瑞穂市市民センター　ハナミズキホール

瑞穂市には７つの小学校区の中に９７の単位自治会があります。

それぞれの校区連合会や単位自治会の活動は千差万別です。

共通しているのは、どこも、地域の状況に向き合い、試行錯誤の中、事業に取り組んでいるということです。

それぞれに一生懸命に取り組まれている自慢の事業があるのですが、そのことを、他の自治会や校区のみなさんに知ってもらうような交流の機会はあまりなく、市民の皆さんもご存じないという状況ではないでしょうか。

そこで、熱心な事業、工夫のある事業、地域の状況をよく考えて実施されている事業など、自慢の事業を広く市民の皆さんに知っていただく機会として、平成30年度より事業報告会を開催しています。

地域コミュニティは地域のみんなで作っていくものです。

地域で活動する実践者の報告を聞いていただき、その思いを感じてください。

そして瑞穂市のコミュニティの今を感じてください。

本日、ご来場いただいた皆さんが、ご自分の地域のコミュニティを、地域のつながりを、改めて考えていただくことで、そこから何かが動き出すのです。

本日の事業報告会が、そんな機会になれば幸いです。

NO. 1

【テーマ】

地域のコミュニティを深めるために
～親睦ダーツ競技大会～

【活動主体】　中原自治会

【活動の主旨】

●期　間

平成30年度～

●目　的

地域コミュニティを深めること

●内　容

地域の中の世代を越えたつながりづくりのために、中原自治会では穂積グランドボールを会場に、ボウリング大会を実施してきました。しかし、穂積グランドボールがなくなることになり、事業継続ができなくなりました。
様々ご意見がありましたが、やはり地域の世代を越えたつながりをつくるためには、ボウリング大会に代わる取り組みが必要と考え、多世代が参加できる内容を模索し、新たに「親睦ダーツ競技大会」を実施しています。

●活動のポイント・工夫等

子どもからお年寄りまでが楽しく安全に参加できるよう、中原自治会独自のルールを考えて実施しています。

【成　果】

「親睦ダーツ競技大会」をきっかけに、地域の人たちが顔見知りになり、近所で顔を合わせれば、言葉を交わすことにつながっています。

【課題と今後の展望】

「親睦ダーツ競技大会」でつながった地域の人たちの輪を広げることにつなげたい。機会がある度に、地域の中で「あいさつ」をすることを呼び掛けています。そこから、世代を越えた地域のコミュニティを深めていきたいです。

地域のコミュニティを深めるために
～親睦ダーツ競技大会～

中原自治会

（平成３１年５月１日現在）

・住民基本台帳

人口　　１，１６５人

（内　外国人　２０８人　１７．８５％）

世帯数　　５１６世帯

・自治会加入世帯数　１８８世帯（自治会加入率　３６．４３％）

・高齢化率（６５歳以上の比率）　１３．９１％

（瑞穂市平均　２０．９９％・穂積校区平均　２１．６９％）

・子ども率（０歳～１４歳）　１７．５１％

（瑞穂市平均　１５．９１％・穂積校区平均　１４．７２％）

中原自治会の状況

地域の世代を越えたつながりづくりを目的に、

「ボウリング大会」を実施していた。

⇩

会場のボウリング場が閉鎖！！

事業の継続ができない！！

⇩

自治会内でアンケート実施

新たな取り組みを模索する

ポイント１

・子どもからお年寄りまで、多世代が楽しく参加できること。

ポイント２

・天候に左右されず、総合センター等で実施できること。

（自治会公民館を所有していない）

⇩

「ダーツ」（**自治会オリジナルルールで**）をやってみよう！！

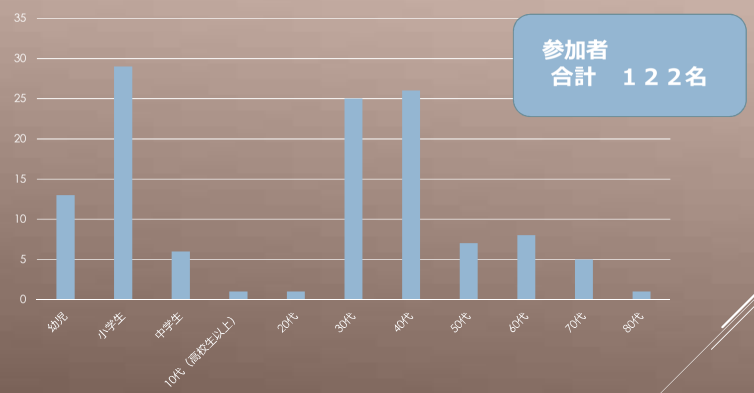
新事業で大事にすること

第１回　親睦ダーツ大会

令和元年６月２３日（日）　午前９時～１２時

総合センター　あじさいホール

子どもから大人まで
たくさんの方が楽しく参加されました



親睦ダーツ競技会の世代別参加状況

子どもたちも。子育て世代も。
みんなの顔がつながるきっかけに・・・

大人も子どもも、みんな笑顔。
とっても楽しそうです。

ダーツって楽しい！！
でも、それだけじゃない。

地域の人々が集まる意味。
お互いの顔を知って、
同じ楽しい時間を共有すること。

そこから、コミュニティは始まる！

「親睦ダーツ競技大会」で生まれたつながりを生かす。

日頃から「あいさつ」をしよう！
知っている顔なら自分から「あいさつ」できる。

⇩

「あいさつ」がどんどん広がれば、
地域のつながりは広がっていく。

⇩

地域の世代を越えたコミュニティを
深めることができる。

今後の課題

NO. 2

【テーマ】

住みたくなる地域作り　　－サマーフェスタ・春祭りを中心に－

【活動主体】　森自治会

【活動の主旨】

●期　間

平成２年～

●目　的

サマーフェスタ、春祭りなどの事業を通じて、地域への愛着を育てること。

●内　容

西小学校区は、近年、若年人口の減少に悩む地域がある中、森自治会は、現在子どもたちが多い。しかし、今後は楽観できない。それで、少しでもこの地域に愛着をもつ人・子どもが増えるよう、行事を計画し運営している。今回の報告会では、サマーフェスタと春祭り、さらに新たな高齢者対象の月行事「もりもりサロン」を加えて紹介する。

●活動のポイント・工夫等

サマーフェスタ・春祭りを通じて地域の大人と子どもがふれ合えるよう工夫している。また最近、高齢者同士がコミュニケーションを交わせる機会を作ることができた。

【成　果】

子どもたちから高齢者まで、地域に対する愛着を深めている。

【課題と今後の展望】

どの事業も、どうしても例年通りという事業運営をしがちで、行事がマンネリ化しやすい。少しずつ知恵を出し合ってそれぞれの事業を見直し、多少とも汗をかいて、一層工夫した事業運営をしていきたい。

森自治会　事業報告

住みたくなる地域作り

ーサマーフェスタ・春祭りを中心にー

令和元年12月14日（土）
森自治会長　大平高司

森自治会の概要

１　場所　巣南中校区の北部 田園地帯
２　世帯数
　１９７世帯＋集合住宅 ４０世帯
３　特徴　旧集落　＋　新興住宅地
　※融合して行事などを推進
４　子どもの人数　※令和元年度
・小学生　４０人　　中学生　２８人

皆で楽しむ地域の行事（１）

「サマーフェスタ」

①　歴史
平成2年度～　　令和元年度で30回目
②　概要
・時間　午後5時～午後8時
・場所　公民館横のお宮境内
（テントを張り、ステージを設置）
・内容　飲食コーナー、出し物

皆で楽しむ地域の行事（１）

「サマーフェスタ」

③　今年度の事業方針
・従来の伝統的事業内容の実施（継続）
・中学生の自主活動、大人とのふれあいの重視（継続）
・<u>多世代の大人が活躍する場の設定（新規）</u>

今年度「サマーフェスタ」のスケジュール

8月4日（日）
5：00～　オープニング
・中学生の踊り「ソーラン」
5：20～　世代別カラオケ大会（新規）
「歌おう　我らが青春SONG！」
6：00～　パタパタ競争（中学生企画ゲーム）
6：45～　ビンゴゲーム大会（中学生企画・司会）
7：25～　おたのしみ抽選会
8：00　　閉会
※飲食コーナー、小学生のお菓子すくいは常時

今年度の「サマーフェスタ」の準備

1　中心担当・・・社会教育推進委員
2　主な準備（役員）
・企画打合会・サマーフェスタ運営委員会など4回
3　中学生の準備
・ふれあい会議での中学生の意見提案
・中学生同士で食べ物メニュー、ビンゴの相談
・直前5日間　ラジオ体操後にソーラン踊り練習
4　当日準備
・午前　会場と調理の準備　・午後　カレー等準備

今年度「サマーフェスタ」の飲食コーナー

1　焼きそば（大人＋中学生）　※（　）内は担当
2　焼き鳥（大人）
3　フランクフルト（子供会－大人）
4　飲み物（ジュース・ビール等）（大人）
5　カレーライス（中学校外＋老人会＋中学生）
6　チーズ・アンドック（中学校外委員＋中学生）
7　かき氷（大人＋中学生）
※1　カレーライス、チーズ・アンドック、かき氷は無料
※2　大人とは役員と協力者

「サマーフェスタ」の成果と課題

1　成果
（1）毎年多くの地域住民が夏の楽しみとして参加し、森区に愛着をもつきっかけになっている。
（2）中学生が中心メンバーとして運営に参加し、地域の大人とふれあい、成長の機会になっている。
2　課題
○行事の内容などがマンネリ化しやすいので、適宜見直しを図り、工夫する必要がある。

皆で楽しむ地域の行事（2）

「春祭りー子どもみこしー」

① 歴史

・春祭り自体は、古くからの伝統行事。

・子どもみこしの実施　昭和52年頃～

② 内容

・3月21日（祝）午前9時～12時

・子どもみこし・花みこしを、小学生が担いで、神社や集落内を練り歩く。

「春祭りー子どもみこし」の係の役割

1　担当･･･子供会（＋小学校校外委員）
　協力･･･自治会役員・交通安全委員

2　準備
　・子どもみこし・花みこしの飾り付け
　・菓子・ジュース、お酒（大人用）の用意
　・はっぴの用意（有料貸与）

3　当日の大人の役割
　・みこしかつぎの手伝い、交通安全の確保
　・休憩場所での子ども、手伝いの大人への菓子・飲み物の配布（子供会・校外委員）

「春祭りー子どもみこしー」の成果と課題

1　成果
　（1）子どもたち（小学生）が、地域の年中行事に楽しく関わり、地域への愛着を深めている。
　　（最も楽しいのは、お菓子がもらえること！？）
　（2）子どもたちが他学年の子どもや、地域の大人と会話をし、貴重なコミュニケーションの機会になっている。

2　課題
　（1）みこしの老朽化・傷み。
　（2）今後の小学生の人数の減少。

皆で楽しむ地域の行事（3）

「もりもりサロン」

① 歴史　・平成27年11月～

② 目的

・高齢者のコミュニケーション・健康維持

③ 日時・場所など

・日時　月1～2回　午前9～11時

・場所　森公民館

・参加料　100円（軽食代）

皆で楽しむ地域の行事（3）

「もりもりサロン」

④　内容

・軽食をとりながらの歓談

・演芸・講演など出し物　　・唱歌など合唱

⑤　参加者

・20人～25人

⑥　運営者

・ボランティア登録20人、毎回約10人協力

森自治会の強み　ー組織の工夫1ー

自治会役員の構成

自治会長

◎評議員会メンバー
副会長（2人）・会計・書記・公民館長・（顧問）等
＋評議員
※以上12～15人。各班から自治会長が指名。
継続的（2年任期。連続は6年まで）

◎班長　11班から11人　※1年任期で持ち回り

森自治会の強み　ー組織の工夫1ー

自治会役員の構成

自治会長

拡大役員会議メンバー

◎評議員会メンバー
副会長（2人）・会計・書記・公民館長・（顧問）等
評議員　※以上12～14人。継続的。

◎班長　11班（1年任期）

◎各係（社教・子供会等）

森自治会の強み　ー組織の工夫2ー

社会教育推進委員（2人）

・内部で社会教育推進委員、社会体育推進委員に分け役割分担。2年任期

・社会教育推進委員・・・サマーフェスタ等担当
・社会体育推進委員・・・スポーツ関係担当

※中学生の保護者から選出
（＝将来の地域を担う若手の育成）

NO. 3

【テーマ】

自主防災活動

【活動主体】　仁井自治会

【活動の主旨】

●期　間

平成２３年～（自主防災組織の結成）

●目　的

地域住民の防災意識向上と安心安全な地域づくり。

●内　容

東日本大震災をきっかけに防災の重要性を再認識し、自治会の中で、「防災訓練等に自治会で取り組むことが必要ではないか。」という声が高まりました。住民が連携し、互いに身を守るため防災活動を行う自主防災組織を結成することから始め、様々な取り組みを積み上げてきました。

●活動のポイント・工夫等

子供から大人まで全員が参加できること目指し、毎年の防災訓練実施日は、分かりやすく１１月第３日曜日と固定し、訓練終了後には、炊出し訓練の楽しみな芋煮等を試食する。

【成　果】

住民が共に連携し、互いに身を守るための防災意識の高まりが家族総出の防災訓練として、毎年参加者の増加として表れている。

【課題と今後の展望】

本田校区自治連合会の全体として

（１）避難所運営協議会の設立に向け協議開始

（２）いつ誰でも初動期の避難所開設運営が行える訓練の導入

（３）情報が共有可能な防災関連保存ファイルの作成

仁井自治会の自主防災活動

令和元年12月14日

目次

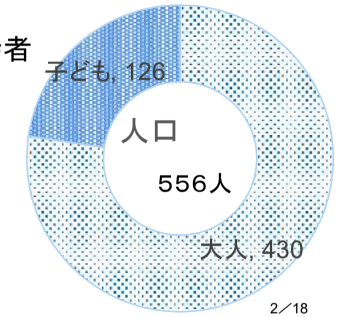
- 仁井自治会の概要
- 自主防災取り組みのきっかけ
- 仁井地区防災コミュニティ推進会
- 自主防災組織について
- 防災訓練について
- 課題と今後について

1／18

仁井自治会の概要

・世帯数：150戸　（平成31年3月31日時点）
（全世帯数：185戸、加入率82%）

・毎年10戸程度の新規入会者
（参考：157戸令和元年12月時点）



2／18

1．自主防災取り組みのきっかけ

- 東日本大震災が発生した平成23年4月
  - 自治会員からの声がきっかけ
    「わが自治会でも防災に取組む必要があるのでは」
- なにもないところから始めた
  - まず手始めに
    - 瑞穂市へのヒアリング
      - 「瑞穂市自主防災組織マニュアル」を入手
  - 続いて
    - 自治会会員へのアプローチ
      - 「自主防災組織への協力について」を発行
        » 「自分達の地域は自分達で守る」と言う御旗のもと、自治会役員への説明会、各班ごとの会員へ説明会を実施し、自主防災への意識づけを行った

3／18

2. 仁井地区防災コミュニティ推進会

- 仁井地区防災コミュニティ推進会の発足
  - 平成23年7月30日　仁井自治会内に専門組織として立ち上げ

＜目的＞
- 地域住民の防災意識向上と安心安全な地域づくり

＜活動内容＞
- **「災害に備えて」**の作成　（次項にて、詳細）
- 防災訓練の企画、準備、実施

＜成果＞
- 同年（平成23年）12月4日
  第1回の防災訓練の実施にこぎつけた

4／18

参考。「災害に備えて」 ー内容紹介ー

1）仁井地区防災コミュニティ推進会規約
2）仁井地区防災コミュニティ推進会防災計画
　別紙1－1　災害時に於ける**自主防災組織**[*1]の編成と活動について
　別紙1－2　突然地震が発生した場合の時間的な経過と自主防災活動
　別紙1－3　推進会の任務分担表
　別紙1－4　推進会の組織図
　別紙2　　推進会の避難計画
　別紙3　　防災関連機関連絡先
　別紙4　　推進会の防災資器材の備蓄品
3）保存版の資料配布
　①「家庭で確認。防災対策」
　②「もし地震が起きたら？」

5／18

3. 自主防災組織について

＜ポイント＞
組織の結成は、防災活動の出発点であり、
「組織化はしたものの・・・」にならないように常に
各自の役割と防災に対する意識づけを行う

1）会長は、自治会長が兼務とする
2）副会長は、自治会の各班役員とする
3）防災班長は、各活動班（情報班、消火班、救出救護班、給食・給水班、水防班、要援護者班、避難所運営班）を設け、その班から選出される
4）防災推進員は、**防災訓練**[*2]等の計画立案を担当し、各班より1名選出される
5）防災班長は、2年の任期とし、各活動班当番は2年毎に順番に交代する

6／18

参考。

仁井地区防災コミュニティ推進会組織図

総務部（再記名）	①情報班	②消火班	③救出救護班	④避難所運営班	⑤給食・給水班	⑥水防班	⑦災害時要援護者班	①情報班	②消火班	③救出救護班	⑤給食・給水班	⑥水防班
総務部長	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）	班長（避難誘導グループ長）
副部長	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）	副班長（グループ副長）
部員	班員	班員	班員	班員	班員	班員	班員	班員	班員	班員	班員	班員

1:総務部の部員は、各避難誘導グループから1名が選出される。(12名)

2:総務部長は、部員の中から選出する。

3:避難誘導グループを活動班とし、一体化をする。2年毎に、活動班の当番を順番に交代する輪番制とする。

4:活動班長・副班長は、それぞれの班に於いて選出される。

5:活動班長と避難誘導グループ長、副班長とグループ副長は、それぞれ兼務する。

6:活動班長(避難誘導グループ長)及び副班長(グループ副長)の任期は、2年とする。ただし、再選することができる。

7:給食・給水班長は、訓練の場合、1年交代する。

8:消火班、救出救護班、水防班は、会長の判断で必要な箇所に出向く。

4. 防災訓練について

参加しやすい | 限られた時間 | 飽きない | 何か楽しみを

①訓練実施日は、年間行事計画で周知し、子供から大人まで参加できる事

②毎年、避難訓練（グループの安否確認、避難路のごみ収集しながら安全点検等）及び、炊出訓練は行う

③毎年個別訓練（情報収集・伝達訓練、消火訓練救出救護、避難所確認等）を順番に実施するあわせて、出前講座等で防災知識の向上等を狙う

8／18

防災訓練の取り組み事例

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
避難誘導	○	○	○	○	○	○	○	○	○
避難所確認		○						○	○
危険個所点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○
防災マップ作成				○					
市防災倉庫確認		○		○					
初期消火	○						○		○
消火栓の放水	○								
救出・救護	○						○		
要介護者支援		○							○
地震体験			○						○
安否確認		○						○	
緊急連絡網情報伝達					○			○	
出前講座				○		○			
炊出訓練	○	○	○	○	○	○	○	○	○
参加人数	128	136	133	175	168	167	183	210	233

9／18

消火栓の放水

救出・救護

北中避難所確認

簡易担架

出前講座

高齢者支援

バケツリレー

炊出し

防災マップ作成

10／18

その他の取り組み

- 消防署による救命講座の開催
- 「知識」「心構え」「準備・備え」アンケート
- 防災資器材・消火栓ホース格納庫点検
- 被災停電時、太陽光発電所からの給電
- 防災倉庫の設置
- 災害時、借用可能な防災備品・設備

11／18

消防署による救命講座の開催

毎年7月に実施

応急手当、基本的心肺蘇生法、AEDの使用法

AED使用

心肺蘇生法

12／18

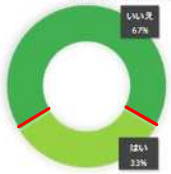
「知識」「心構え」「準備・備え」アンケート

「知識」

災害時に避難する必要がある場合、あなたが特に心配なことは何ですか？

「準備・備え」

あなたは、家族や身近な身近な人と災害が起きた時の安否確認方法について話し合い、取り決めていますか？



「心構え」

あなたは、今後どの防災訓練を実施するとよいと思いますか？

「準備・備え」

大規模災害に備え、皆さんが行う防災対策で重要なものは何だと思いますか？

13／18

防災資器材・消火栓ホース格納庫点検

消火栓ホース格納庫

毎年6月に実施

点　検　簿

14／18

被災停電時、太陽光発電所からの給電

太陽光発電所

充電用タップ

15／18

防災倉庫の設置

基礎工事

防災倉庫

ハンドマイク	5	個	油圧ジャッキ	4	個	簡易毛布担架	1	式
マイク用電池	22	本	大ハンマー	4	個	物干し竿（担架用）	2	本
コードリール	1	個	ロープ	4	本	ブルーシート	3	枚
バケツ	20	個	角 材（大）	6	個	防風垂れシート	2	枚
消防ホース	2	本	角 材（小）	8	個	はそり	2	組
筒先	4	本	オノ	1	個	炊出し用品	1	式
スコップ	4	個	テント	2	張	寸胴	2	組
ツルハシ	4	個	アルミリヤカー	1	台	グループ標旗	11	本
バール	4	本	一輪車	2	台	A3グリップボード版	11	個
のこぎり	4	個	パイプ椅子	13	脚	防災訓練機実施中旗	1	式

災害時、借用可能な防災備品・設備

①三又及びチェンブロック
　　不破鉄工所、鷲見鉄工所
②発電機
　　不破鉄工所、青木　敦
③消火ポンプ
　　青木哲郎、不破鉄工所
④AED
　　まめっこ保育園

課題と今後の展望

｛本田校区自治連合会｝

・避難所運営協議会の設立に向け協議開始

・いつ誰でも初動期の避難所開設運営が行える訓練の導入

・情報共有が可能な防災関連ファイルの作成

6．防災訓練の取組について

平成23年12月4日　128人参加

①避難誘導・危険個所点検、バケツ・消火器の初期消火、消火栓の放水、救出・救護、炊出訓練
②消防署の指導、仁井クラブの協力

消火栓の放水

救出・救護

簡易担架

初期消火

バケツリレー

炊出し

20

平成24年11月8日　136人参加

①北中学校避難所への避難誘導と避難所確認
②地震発生時の安否確認訓練、高齢者や災害時要援護者支援訓練、炊出訓練
③北中学校の協力

北中避難所確認

高齢者支援

21

平成25年11月17日　133人参加

①避難誘導・危険個所点検、地震体験車、ポリ袋炊出し（ハイゼックス袋）
②消防署の指導、赤十字奉仕団協力

炊飯袋に米と水

ハソリに炊飯袋

地震体験車

22

平成26年11月16日　175人参加

①避難誘導・危険個所点検、出前講座（瑞穂市の災害歴と想定災害）、避難用防災マップ作成、市防災倉庫確認、炊出訓練
②瑞穂市の協力

出前講座

防災マップ作成

市の防災倉庫確認

23

平成27年11月15日　　168人参加

①避難誘導・危険個所点検、緊急連絡・災害情報収集、情報伝達、炊出訓練

情報収集等の説明

24

平成28年11月20日　　167人参加

①避難誘導・危険個所点検、出前講座（HUG）、アンケート調査、炊出訓練

②瑞穂市及び北中学校の協力

HUG出前講座

25

アンケート　サマリー

「知識」

災害時に避難する必要がある場合、あなたが特に心配なことは何ですか？

「準備・備え」

あなたは、家族や身近な身近な人と災害が起きた時の安否確認方法について話し合い、取り決めていますか？

「心構え」

あなたは、今後どの防災訓練を実施するとよいと思いますか？

次の取り組み：「情報伝達訓練」

「準備・備え」

大規模災害に備え、皆さんが行う防災対策で重要なものは何だと思いますか？

26

平成29年11月19日　　183人参加

①避難誘導・危険個所点検、初期消火、救出・救護、炊出訓練

②消防署の指導

初期消火

救出救護

27

平成30年11月18日　　210人参加

①避難誘導・危険個所点検、北中学校避難所確認訓練、緊急連絡・災害情報収集、情報伝達、炊出訓練

②7自治会（下生津、仲東、西只越、テラスノバ只越、桜町二丁目、東只越、仁井）の合同訓練

③瑞穂市及び北中学校の協力

避難所受付

避難所確認

28

令和元年11月17日　233人参加

①避難呼びかけ訓練、避難誘導、避難所確認訓練、簡易担架制作訓練、AED操作訓練、けむり体験、地震体験車、初期消火訓練、炊出訓練

②7自治会（下生津、仲東、西只越、テラスノバ只越、桜町二丁目、東只越、仁井）の合同訓練

③瑞穂市、消防署及び北中学校の協力

AED操作訓練

けむり体験

29

2018. 11. 11　瑞穂市　防災訓練

NO.４

【テーマ】

地域力を高める（安全で安心な地域づくり）

【活動主体】　上牛牧自治会、子供会、長寿会、牛和会、消防団、日赤奉仕団等

【活動の主旨】

●期　間

4月～翌3月

●目　的

自治会の活動を通じて各団体、また多世代の交流でふれあい、助け合い・支え合いの絆を深め、地域力の向上を図る（地域の発展と福祉、文化の向上）

●内　容

花見会（犀川左岸堤防）、牛牧ふれあい夏祭り、ラジオ体操（ラジオ体操の日：公園清掃・レク）、盆踊り（牛和会）、地蔵盆（有志）、自主防災訓練、敬老会、八幡神社祭礼（牛和会・子供会神輿）、地域清掃及び防災器具点検、夜警（年末：牛和会）、八幡神社かがり火（大晦日：牛和会）、信徳会（有志）、水路清掃（２回／年）

●活動のポイント・工夫等

年間を通じて多世代（子供会～長寿会）の交流ができる行事を実施
ラジオ体操で皆勤賞を設け、ラジオ体操の日には公園の草取りやレクをし、飲み物と菓子を配布（啓蒙ポスターを小学生に描いてもらい、掲示する）

【成　果】

ラジオ体操の日の参加者が増加、レクによるふれあいで多世代交流ができた。
防災訓練では「わが家の危険度チェック」・「避難者安否確認カード」を配布。
防災訓練や地域清掃での炊き出しは日赤奉仕団に依頼、会員数も増加した。

【課題と今後の展望】

もっと多くの方に参加していただけるよう、広報の仕方や行事の内容を改善したり、特に新しく転入された方へのＰＲも必要。
災害時における自治会の在り方が重要。普段からの助け合い・支え合いが大切。

上牛牧自治会の状況（2019年5月現在）

- 住基人口：1,338人　（内外国人　62人、率4.63%）
- 高齢者人口：205人　（高齢化率：15.32%）
- 敬老対象者数(75歳以上）：97人
- 子ども人口：253人　（子ども率：18.91%）
- 子供会（小学生）：87人
- 住基世帯数：532世帯
- 加入世帯数：502世帯　（加入率：94.36%）
  ・戸建：251世帯　　・集合住宅：251世帯（28棟）

自治会活動（事業）の目的

- 活動を通じて各団体、多世代の交流により、助け合い・支え合いの絆を深め、地域力の向上を図る（地域の発展と福祉、文化の向上）

《各種団体》

- 牛和会　　38名（内女性6名、特別会員8名）
- 日赤奉仕団　　16名（来年度＋3人）
- 子供会　　87名（69世帯）
- 長寿会　　90名（来年度+10人）
- 消防団　　6名
- 福祉協力員　　5名（来年度＋1）　　他

上牛牧で行われる行事

- 花見会（自治会）犀川堤防にて　4月
- 牛牧ふれあい夏祭りで出店（牛和会・子供会）　7月
- ラジオ体操（自治会・子供会）　7～8月
- 盆踊り（牛和会・子供会）　8月
- 地蔵盆（有志）　8月23日
- 自主防災訓練（自治会）　9月第2日曜日
- 敬老会（自治会・長寿会）　9月
- 八幡神社祭礼（牛和会・子供会神輿）　10月
- 地域清掃及び防災器具点検（自治会）　12月
- 夜警（牛和会）　12月26日～30日
- 八幡神社かがり火（牛和会）　12月31日～新年
- 信徳会（有志）　2月第3日曜日
- 水路清掃（自治会）　3月と9月

花　見　会

・牛和会：バザー（やきそば、ネギ゛マ等）
・子供会：合唱を披露
・子供会と長寿会は無料

牛牧ふれあい夏祭り（7月）

牛牧友愛会のメインイベントで、社教推進員が主体で運営、自治会や子供会、スポーツ少年団、PTAなどより出店。

牛和会と子供会が出店

プログラム

よさこい演舞：富有楽猩
牛牧っ子「歌合戦」等
スリッパ飛ばし
出店者対抗のど自慢
餅まき、菓子まき
抽選会

ラジオ体操活動（夏休み）

子供会が主体で行うが、今年度は自治会も連携して、子供の描いた**ポスター掲示、皆勤賞、レクレーション、公園の草取り**などを実施（昨年より参加者は増加）
・夏休み**22日間**行われる

中学生の参加が増加

盆踊り（8月：牛和会）

餅まき、スイカ割、ビンゴゲーム、抽選会、バザー等

地　蔵　盆（8月23日）

地蔵盆は子供のための祭りごとで、読経が終わると灯りのついた提灯をとり、お供えのお菓子を頂いて家路につく。有志のお賽銭により運営している。

敬　老　会（9月）

子供会の歌、花束贈呈、芸能披露、ビンゴゲーム等

八幡神社祭礼・神輿（10月）

牛和会と子供会が八幡神社でお祓いを受けた神輿を担ぎ、自治会内の各家を回る。
秋の風物詩である。

地域清掃・防災器具点検（12月）

子供会、長寿会、班割り、牛和会にグループ分けし、清掃箇所を振り分けて清掃開始。その間に日赤奉仕団で**トン汁とたこ焼き**を準備。清掃から帰ってきたら順次召し上がってもらう。

子供会、長寿会は県道より西側の比較的安全なところを清掃。危険なところは牛和会が担当する。

防災器具点検（消防団・役員主体で）

特にホースや管槍の内側パッキンをチェック

炊き出し訓練

公民館の電子レンジで**たこ焼き**をチンしてパックに入れて、保温箱にて公園へ。公園では**トン汁**を作る。

八幡神社にてかがり火（大晦日～新年）

牛和会が主催し、約40年ほど続く行事である。かがり火を焚き、参拝者に**甘酒とお神酒**を振る舞う。
この行事が始まってからは参拝者が格段に増え、地元の人たちのふれあいの場となっている。

夜　警
12月26～30日の夜、公民館を起点にして地域内の夜警を行っている。（2回/晩）

自主防災訓練（ふれあい公園）

災害対策本部にて、班ごとの避難者受付をし、開会式後、4グループローテで訓練へ。

初期消火訓練

放水訓練

救出・搬送訓練

心肺蘇生・AED訓練

日赤より防災減災グッズ等の説明

炊き出し訓練

ハイゼックスに所定の無洗米、水、具材を入れ、輪ゴムで縛る。ハソリで湯煎する。

閉会式の後、食べながら歓談

炊き出しメニュー

ハイゼックスで、**塩昆布入り**と**梅干入りごはん**及び**ウイロウ**。今年**は卵焼**を作る。
＊ウイロウ、卵焼き、漬物は一人前ずつラップで包む。

水路清掃（3月・9月）

上牛牧地内を流れる水路の土砂を上げ、ショベルでダンプトラックに積み込む。土砂で汚れた道路は洗浄をする。
＊出不足料は1,000円／戸

防災関連資料

令和元年度　上牛牧自治会　自主防災訓練参加者名簿

班№	氏　名	居住者数					内 要介護及び 75歳以上	参加予定者数					内 要介護及び 75歳以上	備考
		大人	中学生	小学生	未就学	計		大人	中学生	小学生	未就学	計		手助必要者数
班長														
計	戸													

事前に班ごとに名前を記入して回覧する

※2枚の内1枚は事前に提出してください。

もう1枚は防災訓練の当日、避難者数を記入の上、受付にて提出してください。

参加者数を事前に把握し、さらに世帯状況を把握するため

上牛牧自治会	避難者・安否確認カード	No.

班	世帯主				携帯電話 自宅電話		
	住　所	瑞穂市牛牧					

世帯構成 人員 No.	氏　　名	性　別	年　齢	支援要否 要支援者〇	避難状況 避難者は〇	備　　考
世帯主　1		男・女				
2		男・女				
3		男・女				
4		男・女				
5		男・女				
6		男・女				

災害発生	年　　月　　日(　　)　　時　　分				
避難状況	世帯人数　　名	避難者	名	不明者	名

地震時　指定緊急避難場所	上牛牧ふれあい公園、円龍寺
水害時　緊急避難場所	2階などへの垂直避難、円龍寺などの高い場所
指定避難所	牛牧小学校

使用方法・注意点

①平時に家族全員記入し、事前に整備しておく。

②いざという時に持ち出せる場所において、避難時は避難所へ持参する。

③避難完了時に避難者に〇をつけ、行方不明者は備考欄に明示し班長に提出する。

④このカードは個人情報です。取扱いには十分注意してください。

北部防災コミュニティーセンターも希望している

総務省の資料を参考に上牛牧自治会用に作成

わが家の危険度をチェック！

地震発生時、安全に屋外に避難することはもちろん、
震災後にわが家で暮らす方法を家族みんなで話し合いましょう。

STEP1　□平面図を描く

方眼紙などに自宅の平面図（すべての階）を描きましょう。

STEP2　□危険な場所を探す

ガラスや陶器など割れる物がある。タンスなど倒れる家具がある場所をチェック。

STEP3　□元栓などの位置を確認

電気のブレーカー、ガスの元栓やマイコンメーターの場所をチェック。

STEP4　□避難経路の確認

STEP2でチェックした危険な場所を避け、普段過ごす部屋から屋外への避難経路を考えましょう。

STEP5　□震災後の生活を考える

震災後もわが家で生活するために、次のことを考えましょう。

- どの部屋で生活するか？
- 食料や飲料水はどうするか？
- トイレはどうするか？
- 寒さ対策は？

部屋の家具やテレビなどの平面図を描き、倒れた時にどの範囲に倒れるかをシュミレーションし、自分の居場所を考える。
また屋外への避難経路を家族と考える。

災害・避難カード

表

●●市　●●地区「災害・避難カード」オモテ　1人1枚

点線をはさみで切って使用しましょう。(6人分)

「災害・避難カード」ーわたしの情報

ふりがな
名　前

性　別　血液型

生年月日

住　所

電話番号

留意事項　持病、飲んでいる薬など

避難時は、このカードを持って行く！

裏

●●市　●●地区「災害・避難カード」　ウラ　1人1枚

点線をはさみで切って使用しましょう。(6人分)

家族（頼りになる人）の緊急連絡先

氏名　連絡先（職場・携帯など）

電話がつながらないときは、171（災害用伝言ダイヤル）

※音声説明あり

自分の居場所を伝える　録音「1」

家族の居場所を調べる　再生「2」

表側は個人票、裏側は家族など頼りになる人を事前に記入して身に着けておく

自治会活動の成果

- 「ラジオ体操の日」では、141人（幼児8、小学生57、中学生11人、大人65人） 昨年比＋35人
  ⇒レクレーションと清掃活動で多世代交流ができ、お互いの面識を深めることができた。
- 防災訓練では防災減災意識を高めるため、「わが家の危険度チェック」「避難者安否確認カード」「災害避難カード（個人票）」を配布した
- 防災訓練と地域清掃での炊き出しを日赤奉仕団に依頼しているが、会員数が年々増加（来年+3人）

課題と今後の展望

- まだまだ行事への参加者が少ないため、広報の仕方や行事の内容を改善したい。特に新しく転入された方へのPRが必要である。
- 近年の災害は異常ともいえ、何時発生するか心配である。災害時における自治会の在り方を考え直す必要がある。
- 将来を担う子どもや高齢者等の見守り、また普段からの支え合い・助け合いを推進したい

安全・安心な地域づくり

- 自分の身は自分で守る！
- 自分たちの地域は自分たちで守る！
- 自分たちの地域は自分たちできれいにする！
- 地域の子どもは地域で育てる！
- 当事者意識を高める！

ご清聴ありがとうございました

上牛牧自治会

NO. 5

【テーマ】

村中自治会における防災への取り組み

【活動主体】村中自治会

【活動の主旨】

●期　間

平成30年６月　～　令和元年12月

●目　的

大規模災害では、地域住民の安全は、まず自分達で行動しなければ命が守れないことを痛感した。そこで、防災への理解と体験を通じて、防災意識の浸透と備品等の整備を実施した。

●内　容

●地震を想定し、地震による火災・堤防決壊時の避難と初期消火を中心とする啓蒙的な取り組みを実施した。

１．避難経路の確認訓練：一時避難所から穂積小学校への経路
２．消火栓と消防ホース等の取扱訓練：消火栓・用具の確認と操作
３．防災用備品の管理と充実：必要備品のリスト化と補充

●活動のポイント・工夫等

１．避難経路：家屋の倒壊・地下道等の浸水・崩落の危険、徒歩時間を確認。
２．消火栓の位置、ホース連結と放水の範囲と放水までに必要な時間を確認。
３．リスト化により不足物が明確となり、災害時に適合した備品の充実。

【成　果】

１．地図により避難経路と全体の状況が明確となり、避難時に役立つ。
２．消火栓とホース格納庫の位置・内容・操作を各場所の住民が知ることができた。
３．災害時に必要となる備品が明確となり、点検・補充・更新がしやすくなった。

【課題と今後の展望】

１．避難経路の状況は毎年変化するため、地図等のチェックと更新。
２．少人数でも引き回せ消火ホースと、力が弱くても放水できる放水銃への更新。
３．不足する防災備品と、毎年の点検・補充・更新を確認する体制の整備。

■村中自治会における防災への取り組みについて

村中自治会長　佐々木尚孝

１．防災対応事業を実施した背景と目的

「阪神・淡路大震災 1995.1.17」と「東日本大震災 2011.3.11」は衝撃的でした。その後も各地で地震が起きています。私たちの住む地域で「巨大地震」が起きたら... !?という視点を、自治会長となって認識し、少しでも安全で安心して住める地域へと向かう取り組みを始めました。

２．村中自治会の地理的位置付けと自治会規模

北側が国道 21 号線（岐大バイパス）、東側が長良川で、住居は内堤防の中にあります。

上穂積交差点から南へ向かう道路の西側が「西畑」、東側は 400ｍほどで「前所」となります。

ここに、会員数 128 世帯、400 人余りが住んでいます。

３．地震災害への対策と取り組み

1976 年(昭和 51 年)9.12 豪雨災害を経験した人は、水害への対策と認識はある程度持っていますので、未経験の地震による災害に絞って取り組みをしました。

（１）地震時の避難場所と避難経路の確認と問題の検討

①避難所確認訓練 2018.12.16　参加 22 名

②３自治会（西畑・村中・前所）防災訓練 2019.06.16　参加 30 名

（２）初期消火訓練 2019.04.14：地域内全ての消火栓・用具の確認と放水訓練

①３組（北・中・南）における消火栓の位置確認と放水までの操作体験：参加 59 名

※謝辞：合同防災訓練の提案と実施を主導して下さった前所自治会長・西畑自治会長に感謝します。
市民協働安全課の皆様には、防災資料の提供・助言など様々な御支援をいただき感謝いたします。

②消防隊員及び経験者による指導と問題点の抽出

（３）倉庫保管の防災用備品の管理と充実：北倉庫・南倉庫・瑞穂市水防倉庫

①倉庫内備品のチェックとリスト化：180505～継続中

②訓練等の結果に基づく防災備品の補充と整備

４．成果と課題

（１）防災訓練の成果と課題

参加者は、災害時の避難経路と問題点を知ることができました。3 自治会合同防災訓練では、担架救護・初期消火・AED に子ども達が積極参加し、家族で体験できた点が成果です。

課題は、実際に即した訓練を、継続的に実施することです。

（２）初期消火訓練の成果と課題

溝掃除と同時開催により多数の参加があり、ホースの引き回しと放水訓練は、小学生も参加して協力してできました。しかし、埋設型消火栓の蓋開けや連結したホースの引き回しに課題があることがわかり対応をしています。

（３）防災備品に関する成果と課題

訓練で明らかになった課題の解決へ向けて、不足する備品を整備しました。課題は、実際に使用する場合の使用方法と使用する人の育成など、継続的な備品の維持・管理と活用する仕組みを明らかにし、訓練に含めていく必要があることです。

□以上

※謝辞：合同防災訓練の提案と実施を主導して下さった前所自治会長・西畑自治会長に感謝します。
市民協働安全課の皆様には、防災資料の提供・助言など様々な御支援をいただき感謝いたします。